旧MIST並びに旧JASMISSの会員の皆様へ

この度、第30回関西MIST研究会を2026年10月24日（土）、梅田スカイビルにて開催いたしました。第30回という記念すべき関西MIST研究会の当番幹事を拝命いたしました、関西ろうさい病院の山﨑良二です。今回のテーマは「脊椎の低侵襲治療、明日への挑戦」といたしました。

MISTは患者層が多い変性疾患や骨粗鬆症性の椎体骨折関連で議論されることが多く、過去の本研究会でも変性疾患が主なテーマでした。もちろん、今後もそういった疾患や病態がテーマの中心となるでしょう。しかし、脊椎治療の低侵襲化により治療分野が広がり、患者のニーズも変わってきています。スポーツ脊椎、脊椎内視鏡手術、脊椎エコー、AI、リハビリなど、これまでそこまで注目を浴びなかった分野が、今後はMISTをサポートしMISTがサポートする重要な要素として注目を集めていくと考えます。関西MIST研究会は、学閥を超えて新たな脊椎治療の可能性を追求し続けてきた活動的な研究会であり、このようなテーマを議論するのに最適な場所と考えました。

多様性のある脊椎外科医療に、従来の枠組みにとらわれない幅広いテーマを取り上げました。メイン会場では、一般演題8演題、シンポジウム6演題（外傷・脊柱変形・イノベーションマネジメント・脊椎エコー・リハビリ・スポーツ脊椎）、特別講演は2つのテーマに2演題ずつ4演題、のご発表とご講演を賜りました。サブ会場ではコメディカルの発表を主に6演題のご発表をいただきました。

当日は139名の方々にご参加いただき、ハンズオン（大動物の摘出脊椎とモデルボーンを用いた手術手技練習）にも51名の方々にご参加いただきました。活発な討論と交流を通じて、盛況のうちに終えることができました。過去最高の盛り上がり見せたと自負しております(笑)。

研究会終了後には、懇親会（情報交換会）を開催し、施設や世代の垣根を越えた交流が行われ、日頃の診療や研究について語り合いながら親睦を深めることができました。本研究会の大きな魅力である、自由闊達な議論と温かな交流を改めて実感するひとときとなりました。皆様のご協力のおかげをもちまして、第30回関西MIST研究会を無事、盛会のうちに終えることができました。ご講演・ご発表いただきました方々、座長ならびに世話人の先生方、ご支援を賜りました協賛企業の皆様、準備・運営にご尽力いただきました事務局スタッフおよび関係者の皆様、そしてご参加いただいたすべての皆様に、改めて深く感謝申し上げます。
これもひとえに皆様方のご協力の賜物であり、心より御礼申し上げます。

第30回関西MIST研究会
当番幹事　関西ろうさい病院　整形外科 / 脊椎内視鏡センター　山﨑良二

